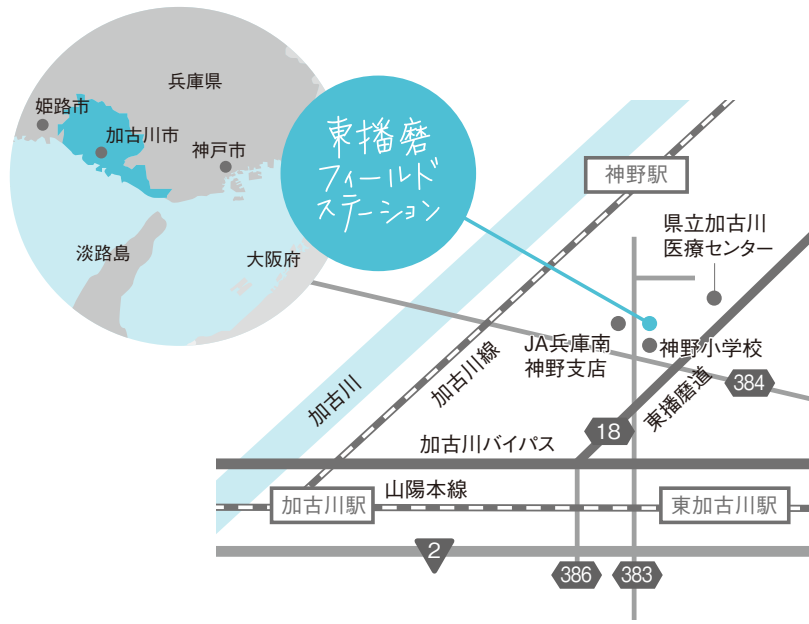




東播磨フィールドステーション

〒675-0003
兵庫県加古川市神野町神野690-1

メール | e-harima@kobe-face.jp

HP | http://e-harima.kobe-face.jp/

開室日:月水木金 9:00～17:00(原則)

最新情報はFacebookページで発信中

アクセス

加古川駅から車で15分、
(JA兵庫南神野支店の前)
駐車スペース:15台



東播磨フィールドステーションの目的

地域のレジリエンスを向上させていくこと

レジリエンスとは?

Resilience

環境・状況の変化に適応し、持続発展していくための能力やシステムのこと。強靱さ、復元力、防災力なども訳されます。人口減少や気候変動、不安定な経済環境などに適応する地域の力です。

地域の交流・研究拠点

地域の人々が集い、新しい地域活動やビジネスを生み出す交流拠点であるとともに、様々な機関や専門領域の研究者らが協働し、地域の課題解決や未来創造を進める研究拠点となることを目指しています。

資源管理支援のプロトタイプ

ため池をはじめとする地域資源を保全・活用し、地域の持続的な発展を支えるための中核的な公的支援機関のあり方を模索しています。東播磨フィールドステーションは、そのプロトタイプ(先駆的モデル事業)です。

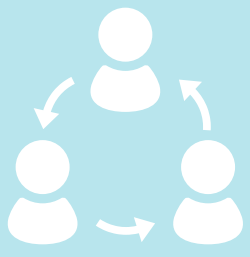
取り組みの3本柱 地域のレジリエンスを向上させていくために、以下の3つの取り組みを柱としています。

1 環境・経済エコシステムの構築



地域の資源を活用し、社会・経済・環境・防災面などを統合した新たなシステムを作ります。

2 地域人材の育成とネットワーク



新しい価値を創造し、問題解決を図る人材を育成するとともに、そのネットワークを形成します。

3 地域ナレッジの継承・創造



地域で蓄積されたナレッジ(知識・知恵・知見・情報など)を収集、整理するとともに新たに創造していきます。

開設までの流れ



2016



2017



2018



? 東播磨地域の悩み

いなみ野ため池ミュージアムなど、ため池に関する取り組みを長い間やってきたが、これから先どうしていけばいいのだろうか。

東播磨とため池

兵庫県は、全国一のため池保有県(約37,000個)。東播磨は日本有数のため池密集地帯。

ため池の管理問題

ため池は、生活や農業を営むために人々の手によって作られ、管理されてきたもの。しかし、農業の衰退や少子高齢化、都市化などを背景に、管理が行き届いていないため池や決壊の危険性があるため池も増加中。



いなみ野ため池ミュージアムの取り組み(2002～)

農家やため池の管理組織だけでなく、地域住民や自治会、企業、教育関係者、行政など、ため池を管理していくにあたっての「住民参加」を促す取り組み。かいぼりや生き物観察会、クリーンキャンペーンなど各種イベントを数多く実施・支援。



共同調査研究をスタート

東播磨県民局からの相談を受け、大学の研究者と東播磨県民局による共同調査研究を開始。



技術開発と新しい主体の参加

- ・管理作業の効率化
- ・専門的技術・知恵の管理
- ・新しい主体の参加促進、裾野の拡大、啓発



作業と便益に応じた協働体制

- ・管理作業の細かな区分
- ・ため池から受ける便益や作業レベルに応じた協働体制の再構築(農家、市民、専門家、行政など)



個人対応と総合化

- ・個人を対象とした取組の強化
- ・地域づくり活動を上位とした、ため池管理の推進と支援(地域自治施策とため池管理施策の統合)



フィールドステーションの構想

導かれた構想

- 1 レジリエンスという**大きな枠組み**から、活動を展開していく。
- 2 上記の「3本柱」に関する活動を通して**レジリエンスを向上**させていく。
- 3 研究者が駐在し、**現場密着型**で活動をおこなっていく。



リノベーション

地域人材のネットワークを構築していくツールとして、リノベーション・ワークショップを実施(計5回、参加者:のべ120名)。



開所式・連携協定



組織構成

大学

神戸大学大学院農学研究科
京都大学大学院農学研究科
兵庫県立大学地域創造機構



連携協定

行政

兵庫県東播磨県民局

プロジェクトスタッフ・パートナー

ボードメンバー



星野敏

京都大学大学院農学研究科
教授(農村計画学)



内平隆之

兵庫県立大学地域創造機構
教授(建築学)



中塚雅也

神戸大学大学院農学研究科
准教授(農業農村経営学)

駐在員

【コーディネーター】



柴崎浩平

神戸大学大学院農学研究科
地域連携センター 特命助教
(農業農村経営学)

【スタッフ】



久保紀美

(神戸大学大学院農学研究科
博士後期課程)



濱田香織

(加古川市立神野くすのき会館事務員)

パートナー

【東播磨県民局担当者等】

安國庫生(兵庫県東播磨県民局地域振興室 ため池ミュージアム 参与)
野村純数(兵庫県東播磨県民局地域振興室 水辺地域づくり担当 班長)
福原隆泰(いなみ野ため池ミュージアム運営協議会 コーディネーター)

【東播磨ため池レジリエンス構築プロジェクト推進検討会】

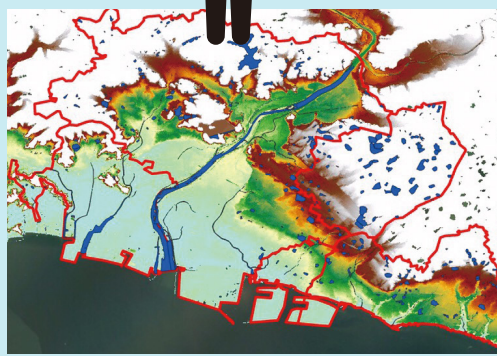
座長 星野敏(京都大学大学院農学研究科 教授)
構成員 内平隆之(兵庫県立大学地域創造機構 教授)
中塚雅也(神戸大学大学院農学研究科 准教授)
池本廣希(いなみ野ため池ミュージアム運営協議会 副会長)
住本昌彦(東播磨県民局地域振興室 室長)
野村隆幸(兵庫南農業協同組合 代表理事専務)

Question

資源管理や地域づくりの取組、 どう進めていけばいいの？

Action データに基づいたプロジェクトや政策の促進

地域づくりをおこなっていくためには、データに基づいた戦略が重要だと考えています。既存のデータの整理に加え、新たなデータを収集し、地図情報システム(GIS)や経済モデルを駆使して分析します。その結果をもとに、政策立案・戦略策定・プロジェクトのスタートアップをサポートしていきます。



Question

ため池の管理者になった… どうしよう?!

Action 管理後継者のサポート方策の開発

ため池の管理者になったけど管理方法がよくわからない…ということが実際に起きており、今後もそういった悩みを抱える人は増えていくと予想されます。管理していくために何ができないといけないか。また、現代にあった管理方法とはどのようなものか。ため池管理者への聞き取り調査を通して、支援方策を探究中。



Question

ため池って、もっと可能性ないの？

Action ため池の新たな価値の創造

本来ため池は、様々な使われ方がなされてきました。しかし今日においては、農業用水・貯水としての活用がメインとなっており、市民はため池があることの恩恵を感じにくくなっています。ため池の価値を高めていくにはどのようにすればいいのでしょうか。その答えを見出すために調査やワークショップを実施しています。



水辺活用 ワークショップ



水辺での楽しみ(遊びやビジネスなど)を創出していくことを目的としたワークショップを開催しました(11/9、12/21、参加者:のべ41人)。このWSを契機に、朝もやが立ち込めるため池にカヌーを浮かべながらコーヒーを飲むイベントや(1/19)、若手を中心とした任意団体が設立されました(1/23)。



Question

今後の宅地や農地、 どう維持・活用していけばいいの？

Action 新たな地域計画づくりの支援

人口減少が進むなか、それぞれの地域の実情に応じた将来像を描く必要があります。総合的な目標やビジョンのもと、地域に“新しい動き”が生まれるような土地利用のあり方を考えていきます。加古川市都市計画課との連携を図り、来年度から本格的な実践を予定しています。

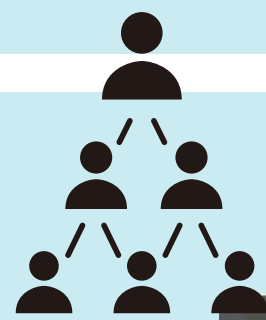


Question

ため池管理作業の 担い手が不安…

Action 管理作業への参加を促す仕組みの解明

ため池を持続的に管理するために、望まれる組織体制はどのようなものか、また、人材はどのように育成していくのかについて、経営学、計画学の視点から探究しています。また、九州大学の研究者とも、実験経済学的なアプローチによって、作業参加促進の方法を探る共同研究を進めています。



Question

農業と福祉を繋げたい

Action 多様な農業と働き方を提案(農福連携)

農業と福祉、相互に補完しあうことで新たな価値を生み出す可能性を秘めています。「農福連携」とも呼ばれるこの動きですが、その具現化には、どのような仕組みやサポートが必要でしょうか。セミナーの開催や各主体の意向調査を通して、多様な市民とともに営む新たな農業のあり方を模索していきます。



セミナーの開催



中本英里氏(農研機構西日本農業研究センター)を講師に迎え、農福連携をテーマにしたセミナー(Rural Learning Network)を開催しました(1/11)。農業従事者や福祉関係者だけでなく、多様な関心をもつ方が参加しました(34名)。

各種相談について



地域資源の管理、地域づくり活動など、東播磨地域の発展に資する各種相談にお応えするとともに、連携事業も進めていきたいと思っています。

相談数 **30件**

ため池に関連する相談だけでなく、農業、福祉、まちづくり計画、場の運営など、多様な相談が集まりつつあります。

- ・ため池の管理が楽になるような方法をみつけたが…(ため池管理者・70代男性)
- ・草刈りが楽になる方法を探っていきたいが…(コンサルタント・40代男性)
- ・住民の意見を取り込んだ、ため池改修をしていきたいが…(行政職員・40代男性)
- ・ため池で植物を栽培して収益化していきたいが…(農業関係者・30代男性)
- ・福祉と連携した農業経営をおこなっていきたいが…(農業関係者・40代男性)
- ・自然エネルギーに関する取り組みをおこなっていきたいが…(経営者・40代女性)

相談の仕方

- 1 駐在員(柴崎)への相談
自由相談(原則毎週木曜 13:00~17:00)
- 2 ボードメンバー(星野・内平・中塚)への相談
月1回程度の来室日を設定。

※必ず事前にアポイントメントをお願いいたします。

東播磨フィールドステーションの 利用について

ワークショップ&セミナースペース(25人対応)

関連する活動・事業についてのコワーキング利用も検討中。

※貸しスペース事業は行っていません

訪問人数 **436人** (2018.7~2019.3)
セミナー・ワークショップ(計3回)の参加者、打ち合わせ、相談、ふらっと訪れる方など

視察件数 **10件** 大学の研究者(東京大学や慶応義塾大学など)や台湾の研究機関、行政、民間企業など

voice

東播磨FSに
関わった方の声

楽しそうな活動が 生まれる雰囲気



行政職員
20代女性

地域の人と関わりたいと思い、水辺活用ワークショップに参加しました。参加してみると、地域に課題や希望を持つ様々な立場の人と意見交換ができました。楽しい活動が生まれる雰囲気があり、自分も関わっていきたいと思いました。

ため池管理者 との出会い



会社員
40代男性

ため池は身近にあるけど、管理している人が誰かも知らなかったし、管理に困っていることも知らなかった。管理していくにあたって何に困っているのか、どうすればそれが楽になるのか探っていきたいと思った。

協力してくれる人 との出会い



ため池管理者
70代男性

協力してくれる人と出会えた。例えば、ウォーキングマップを作るにあたってデザイナーからアドバイスをもらえたり、イベントを盛り上げてくれるサポーターや地域づくりに興味のある若者などに出会えた。



デザイナー
30代男性

地域課題について 話し合える場ができた

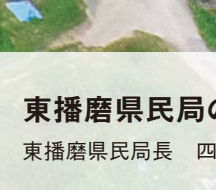
家族が農地を管理していることもあり、ため池を含めた課題を考える場を求めています。同じ志を持った仲間と出会える場にもなっています。どんな活動が進めいけるかワクワク!



行政職員
50代男性

有効な アドバイスをもらえた

相談することを躊躇する部分はあったが、相談してみてよかった。活動(田園まちづくり制度)の方向性を検討していくにあたっての貴重な知識・アドバイスをもらうことができた。



東播磨県民局の期待
東播磨県民局長 四海達也

人口減少局面に入った私たちの地域社会は、今後劇的な変化を迎えます。その変化に適応しうる新しい「社会モデル」を作る…そのために設置したのが「東播磨フィールドステーション」です。これまで誰もおこなったことのない新しい事柄への挑戦です。地域の皆さんとしっかりした人間関係を築き、その中からにじみ出る地域課題を丁寧にくぐり、解決の糸口を探っていく…そんな地に足をつけ、じっくり腰を据えた取り組みを期待しているところです。